

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092600069	
法人名	株式会社 サンシャインライフ	
事業所名	サンシャイン神戸の杜グループ ホーム	
所在地	長野県木曾郡南木曾町読書3227-4	
自己評価作成日	平成26年11月30日	評価結果市町村受理日 平成27年3月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成27年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは木曾川のせせらぎが聞こえ、ホームの敷地は広大で文化財になろうかという古民家がある情緒豊かな場所にあり、山菜取りや自然の木々を楽しむことができ、四季の移ろいを五感で感じることが出来るホームです。理念には「温かい笑顔で、心を込めた愛情あふれるケア」「寄り添い・触れあい・耳を傾け・共に過ごすケア」等を掲げ、一人ひとりの個性を活かしながら、細やかな心遣いを大切に日々のケアに取り組んでいます。入居者の皆様に笑顔で暮らして頂くために、昨日よりも今日、今日よりも明日が少しでも良くなるようにスタッフ全員で考え入居者の皆さんと共に過ごすことを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地域密着型の意義を踏まえ、前回の外部評価を受審後、目標達成を全職員で検討してよりよい運営に向けて、理念の実践に繋がられるよう常にケアの見直しに努めている。利用者も職員も現状維持でなく「今日よりも明日を！」と、工夫している。利用者にケアを提供するには、様々な工夫を行い、一つの方法として利用者の生活歴を把握しケアの中に取り入れている。漬物名人の利用者には、漬物を漬けてもらい食事に提供している。このようにホームの利用者の生活歴などの情報をチームで共有し、その人が一番輝いている時をケアで再現出来るよう努めている。利用者の笑顔が見られるよう、全職員が如何に「利用者本人の思い」を共有し、同じ価値観でケアに携わる事ができるかと言う事。これをミーティング時や職員会で話し合いチームで協働出来るよう努めている。ホームに入ると利用者そして職員の素敵な笑顔に出逢える。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(もみじユニット)		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
		2. 利用者の2/3くらい			1. ほぼ全ての家族と
		3. 利用者の1/3くらい			2. 家族の2/3くらい
		4. ほとんど掴んでいない			3. 家族の1/3くらい
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
		2. 数日に1回程度ある			1. ほぼ毎日のように
		3. たまにある			2. 数日に1回程度
		4. ほとんどない			3. たまに
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		2. 利用者の2/3くらい			1. 大いに増えている
		3. 利用者の1/3くらい			2. 少しずつ増えている
		4. ほとんどいない			3. あまり増えていない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
		2. 利用者の2/3くらい			1. ほぼ全ての職員が
		3. 利用者の1/3くらい			2. 職員2/3くらい
		4. ほとんどいない			3. 職員の1/3くらい
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらい			1. ほぼ全ての利用者が
		3. 利用者の1/3くらい			2. 利用者の2/3くらい
		4. ほとんどいない			3. 利用者の1/3くらい
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらい			1. ほぼ全ての家族等が
		3. 利用者の1/3くらい			2. 家族等の2/3くらい
		4. ほとんどいない			3. 家族等の1/3くらい
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			4. ほとんどできていない
		2. 利用者の2/3くらい			
		3. 利用者の1/3くらい			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>開設時にスタッフ全員で理念について話し合っ て理念を作り、常に理念を意識しながら日々 のケアに取り組んでいる。又、ケアで悩んだり問 題が発生した場合などは全員で理念を再確認 することもある。</p>	<p>"温かい笑顔で心をこめた...、寄り添い触れ合 い...、地域の方々との..."の理念を開設時に 全員で作成し、日々のサービス提供時においてこ れで良いのか理念を掘り下げて話し合い、全職 員が理念を共有し、日々の実践の中で具現化 に取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している</p>	<p>自治体へ加入しており、広報の配布を受けてい るため地域の情報も得られ、地域のお祭りなど の催し物への参加・地元高校生との交流会・中 学生職場体験受け入れ・小学生との交流会・演 芸ボランティア等で交流している。又、地域住 民の方が定期的に訪問され、入居者の皆さん と交流して頂いている。</p>	<p>普段の生活の中に地域のボランティアの訪問 や学生の福祉体験等の受け入れ等がある。また地 域の神社の子供みこしの訪問があったりと触れ 合う機会が多い。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている</p>	<p>災害時の福祉避難所として町と協定を結び地 元高齢者の避難場所としており、災害時に受け 入れを行ったこともある。又、地域の老人会か ら敬老会へのホームからの出し物の依頼があ り、職員が敬老会に参加する等地域との交流 を行っている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している</p>	<p>運営推進会議の委員には包括支援センター職 員・消防署員・区長・民生委員や近隣住民の方 に委員となって頂き、地域の情報を頂いたり、 災害時の協力体制を整えて頂くなどの協力も 得られている。又、困難事例の相談なども行っ ている。</p>	<p>事業所の取組んでいる内容等、(行事やヒヤリ ハット事例、困難事例など)報告し、委員から具 体的なアドバイスや協力を等を頂き、利用者へ のサービスに活かすよう努めている。防火安全 対策について地域の中にある「神戸の杜」と地 域との協力体制の話し合いがされている。。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の場などでも、困難事例の相談 や助言を受けることもあり、介護保険担当者 とも電話での相談も受け易く、運営に活かして いる。又、月1回の地域ケア会議へも参加し、情 報交換も行うなど、関係づくりに努めている。</p>	<p>事業所の状況の報告・相談を行い、必要に応じ た情報の共有や連携を図っている。地域ケア 会議に出席し、又、グループホームもケアマネ 会議に参加出来るようになり参加し連携を図 っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフの入社時研修では身体拘束禁止の具体的な行為について学んでもらい、日々のケアに取り組んでいる。ホーム内から自由にウッドデッキに出入りできるようにし、見守りを行うなど拘束にならないケアに取り組んでいるが、建物の立地条件上スタッフの勤務状況により施錠が必要となる場合がある。	事業所が傾斜地にあるなど、事業所固有のリスクを把握し、ヒヤリハット事例等を挙げ、意識づけを行っている。言葉の拘束や身体拘束を行わない支援に努めているが、ウッドデッキや玄関に通ずるドアの施錠等状況に応じて施錠する場合もある。	事業所全スタッフで気づきを持つ研修等(OJTやOff-JT)を行うなど、どんな事があっても拘束は行わないという事について全員で話し合い、安全を確保しつつ利用者の自由な暮らしの支援の工夫を期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法を入社時研修項目にいれ、虐待防止について学び、スタッフ同士で常に意識してケアに取り組んでいる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用できるように支援し、入居者の何名かは制度を利用している方がいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談があった時点から、契約内容について重要な部分の説明を行ない、入居が決定した場合は再度十分な説明を行うなど理解して頂いている。事前面談には十分な時間をかけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・入居者からは管理者に対して要望を言い易いように信頼関係づくりや雰囲気作りを心がけている。又、家族様意向確認書に記入して頂きスタッフ全員で情報を共有したり、ケアプランの更新時には希望などを聞き取り日々のケア反映させている。	家族との連携を大切に捉え「家族様意向確認書」を作成し、意見や要望等引き出す工夫に努めている。出された意見を基に管理者は職員と共に話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全体会議を行い、代表者・管理者・職員と意見交換する機会を設けている。管理者はスタッフの要望・提案などがあれば、代表者に伝え、運営に反映できるように努めている。	月1回の職員会において、代表者の出席があり意見交換を行っている。又、更にグループ内の責任者会議には、出された意見等検討を行い、事業所の運営に活かすよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフのケアへの取り組み姿勢や自己研鑽等の状況により、賞与や社員への登用・ベースアップを行っている。スタッフ同士の信頼関係づくりに努め、働きやすい職場環境づくりにも努めている。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じて外部の研修会に参加する機会を設けたり、法人内でも研修の機会を作り、ケアに活かしている。又、様々な研修会の情報をスタッフに提供し、学ぶ機会を作り、スキルアップに努めている。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣で活動しているネットワーク研修会に加盟し勉強会や研究発表会に参加し、ネットワークづくりに努め、質の向上に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の事前面談時には、本人の思いの汲み取りや、不安なことに対してはできるだけ丁寧に説明を行っている。入居をされるにあたって、体験入居して頂き、サービスを利用するか決められる方もあり信頼関係づくりに努めている。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談・ホーム見学・契約内容の説明には時間をかけて丁寧に言い、要望などを聞きとったり、情報を頂くなど信頼関係づくりに努めている。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の申し込みがあった時点から、情報収集を行い、情報をもとに事前面談に臨み、グループホーム利用が最善かどうか協議する等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居時の情報や入居後の状態をスタッフ全員で共有し、楽しく会話したり、家事などを一緒に行うなど、一人ひとりの状況に応じて、自立支援に繋げている。又、共に過ごすことを理念に掲げ、日々のケアに取り組んでいる。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ホーム側だけでなく家族と共に支えていきたいという思いを入居時に理解して頂き、家族様との信頼関係つくり努めている。宿泊される家族もあり、スタッフの関わり方や生活の様子・認知症の進行状況等を見て頂き、話し合いの機会を持つことが出来ている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居時に家族やケアマネから情報収集し(センター方式シート使用)地域社会との繋がりを把握し、外食・理美容院・買い物等地域との関係性が途切れない様に支援している。又、地域の方が定期的に訪問され作品作り等の指導も受けている。</p>	<p>地域にある南木曾会館へ出かけたり・友達に会いに行ったり・誕生日にはお花が届けられたり・年賀状を出したり・友達の訪問があったり...とこれまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援を大切にしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>認知症の行動障害により入居者間のトラブルを防止する為に、スタッフが常に見守りを行い、入居者同士の関係性がこじれない様に努めている。又、入居者同士の支え合いの場面も見受けられる。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了した場合は、その後のサービス利用状況もあるので、継続した支援は難しいと感じている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時の家族・ケアマネからの情報や本人の希望や要望をスタッフ全員で共有し、本人の希望に添えるように心がけている。又、意思表示の困難な方は日々の言葉・表情・毎日の記録から意向を把握し、ケアプランに活かしている。</p>	<p>利用者一人ひとりの、日々の生活の中から利用者の思いや何気ない言葉を24時間生活変化シートに記録し、ミーティング時に話し合い、本人の視点に立った支援に努めている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>事前面談時から生活歴や生活環境等・サービス利用状況を把握したり、日々の会話の中からや家族からは面会時などにも情報を得て、アセスメントシートに記録し、馴染みの暮らしが継続できるように取り組んでいる。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の記録(D-4シート)や出来る出来ないシート、わかるわからないシートを記録しながら有する能力を把握し、スタッフ全員で共有できるように努めている。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族に意向を確認したり、日々の生活の中から、よりよく暮らすための課題などを話し合い、介護計画を作成し、ケアを行っている。随時モニタリングを行い、変更・追加を行うなど見直しもやっている。</p>	<p>日々の暮らしの中から、本人の思いや意向の記録を基に、サービス担当者会議に於いて意見を出し合い、計画作成担当者が作成し、チームで共有している。モニタリング、カンファレンスを繰り返し、随時見直しを行っている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録はセンター方式シートに記録し、その時の状況や影響していること・本人や家族の言葉・スタッフの思い等を記入し、ケアプラン作成に繋げていけるように努めている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族の状況により、通院の介助や買い物の支援等を行っている。又、ベッドなどの持ち込みをされない方にはレンタルできるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や家族の面会時・地域の広報誌などで、地域の情報を得て地域の方々と交流することで、入居者の方々の張り合いとなっているように感じる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の意向を尊重し、それぞれの主治医とは常に連携を取りながら、往診・受診・電話相談などにより、きめ細やかな対応が受けられるように支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診は家族対応となっているが、職員が代行する場合もあり、報告は電話やお便りで連絡を取っている。協力医による定期的な往診もある。訪問当日も家族同行の受診から帰られた利用者が家族を玄関先で見送っていた。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の退職により、現在は往診を受けている医院には常に相談できる体制になっているため、相談や助言が受け易く入居者の健康管理が出来ている。新たな看護師の採用ができ今後は看護師との連携が図れるようになっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	開設当初から、近隣の総合病院の関係者とコンタクトをとり、ネットワークづくりや緊急時に備えている。入院された場合には、入院当初から情報交換や相談を行うなど信頼関係づくりに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、家族に対して重度化の指針について説明を行っている。今までに看取りを行ったことはないが、主治医・スタッフも方針を共有している。	事業所としての力量は把握しており、本人や家族とは、早期から話し合いはされている。関係機関との状況の変化に応じて、主治医や関係者と再確認をしながら支援体制に努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、対応している。マニュアルの見直しもその都度行い急変や事故に備えている。主治医・消防署の職員によりアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練については定期的に行っている。地域との連携については運営推進会議を通じて依頼して頂き協力体制も整えている。又、近隣住民の方に協力して頂き、2次避難までの訓練も行い災害に備えたり、非常食の備蓄もやっている。	利用者一人ひとりの状態を踏まえ、夜間の火災を想定しての避難訓練を、地域の皆さんの協力を得て、一緒に訓練が行われている。発生時に備えて、食糧や物品等準備している。又近隣の協力を得て二次避難の訓練を行い実践的な取組みを行っている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サンシャインライフの介護理念として「人の尊厳を大切に介護」を柱としており、会議の場でも振り返りを行い、スタッフ全員が、人格の尊重を重視した対応を心がけている。スタッフの心構えとしての約束事も掲げ日々のケアに取り組んでいる。	代表者は、職員に対し、利用者は人生の先輩として尊重した対応を心掛けるよう常に確認している。そして言葉かけなど誇りを損ねる接し方をした場合は、職員がそれに気づくまで管理者として対人援助の基本を徹底することに努めている。	
37		<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から思いを汲み取ったり、希望を聞き出し、一緒に考えたり、アドバイスをしたりして本人に決めて頂ける様心がけている。入浴は希望時(夜間入浴等)対応したり、飲食物も希望を聞き提供したり、献立も希望を取り入れたりすることも多い。	/	/
38		<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や業務の流れはおおよそ決まっているが、個々の生活のリズムを大切に、しかも孤立しない様に支援したり、様子をみながらその時に応じて、業務を変更する等の配慮を行っている。	/	/
39		<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みやスタイル等を把握し、個々の身だしなみの支援を行なっている。又、整容には常に細やかな気遣いを行い、促しや介助を行っている。	/	/



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事作りは、準備・調理・盛り付け・後片付けまで一緒に行っている。皆さんも楽しみにされ、準備の時間になると積極的に食事作りに参加され、後片付けも役割が出来ている。季節感を感じて頂くために、季節食やおやつ作りを楽しんで頂いている。</p>	<p>漬物名人・ヨモギ餅作り名人など、利用者一人ひとりが役割を持ち、食事の準備から片づけまで職員が間に入り、さり気なく支援をしている。訪問当日は木曽の郷土料理の"おおひら"の汁ものが出され、同じテーブルを囲み会話も弾み楽しい食事時間である。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立はバランスや地域性・好みを考慮し、状態に合わせて提供している。一人ひとりの水分量を記録・把握し、水分が不足しがちな方には好みの飲み物を提供する等配慮している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアは毎食後行っている。虫歯や歯の状態には常に気を配り、治療が必要な場合や入れ歯が必要な方や、かみ合わせが良くない方は歯科受診を行うなどの支援を行なっている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>自尊心と快適さを重視し、一人ひとりのパターンを把握し、パット確認を行ったり誘導を行い、快適に過ごして頂ける様に支援している。又、失敗をされた場合には言い易いような雰囲気作りにも努めている。</p>	<p>利用者の排泄記録行い、情報を共有し必要な一人ひとりについて常に見直しを行っている。トイレでの排泄を大切にしながら、パット類も本人に合わせて検討している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘を解消するために、繊維質の多い食品を献立に取り入れたり、毎日手作りヨーグルトの提供・適度な運動等を行って頂き、便秘解消に努めている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴時間は決めているが、希望がある場合は見守りが出来る限り、時間の幅を広げるように心がけたり、一人の方との関わりなので会話を楽しみながら行っている。希望される場合には、夜間入浴も行っている。</p>	<p>長湯を好む利用者・夜入浴したい利用者・拒む利用者など、一人ひとりの入浴タイプを把握している。季節を味わえる菖蒲湯・ゆず湯、ミカンの皮やリンゴの皮を風呂に入れた湯を提供し、気持ちよく入浴できる支援を行っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ自宅でのペースを尊重し、温度・湿度・照明などに注意し眠れない場合は、安心してできるような話をしたりお茶などを提供し、安心して休んで頂けるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はスタッフが確認できるようにし、服用後の状態の観察・記録も行うようにしている。確実な服用(セット時・配布時・飲みこまれるまで確認)を心がけている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事・好きな事・得意な事を把握し、経験を活かして頂ける様に支援している。一人ひとりの役割も入居者同士でおおよそ決まっており、楽しみながら行ってみえるように感じる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホーム周囲は自然が一杯で、春は山菜取りで楽しみ、夏は木々の緑を楽しみ、秋はもみじの紅葉と戸外に出る機会が増えている。又、町内には様々な花が咲き花見の機会も多く持つことができた。毎月外食に出かけ、買い物も楽しまれている。	「ハンドクリームを買いたい」「じゃ、行きましょう!」「家に行って来たい」など、一人ひとりの行きたい気持ちに沿っている。個人の希望支援を行うと共に、皆で花見に出かけたり、外食に出かけたりと普段行けない場所へ皆で出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かる事を基本としているが、家族と相談し本人の希望に応じて、少額を自分で管理され外出時には自分で支払われる方もみえる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望された場合は自由にかけて頂ける様に支援している。手紙でのやり取りはほとんどない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や換気・彩光・音には常に気を配り、居心地良く暮らして頂けるように支援している。トイレには解り易く貼り紙をしている所もある。皆さんと一緒に季節の貼り絵を貼ったり、季節の花を活けたり、快適に過ごせる空間づくりを目指している。	天井が高い広い共有スペースは、自然の光が入り明るく、台所を中心とし、ストーブがあり温かく、大きいソファでは利用者がゆったり座ってテレビを観たり、テーブルでは、手芸をしたり家庭的な雰囲気の中、居心地の良い空間づくりである。事業所を訪れる方も「気持ちいい。落ち着くね!」と言われる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にサンルームにソファを設置したり、畳コーナーや広々としたウッドデッキがあり、其々好みの場所で過ごして頂けるようになっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で使い慣れた物を持ち込んで頂くように依頼しているが、全員の方が持ち込まれているわけではないが、家族の写真やこだわりの小物などを身の回りに置いて個性のある部屋にするよう心掛けている。	居室は掃き出しの窓、そこを開けると広いウッドデッキに出られる。部屋の中は、使い易いタンスや家族の写真が置かれている。好みによって畳を敷き炬燵も置かれている。各自で掃除して、今までの生活を尊重した居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は常に整理整頓と掃除には気を配り、安全な環境作りを心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>スタッフの採用時には理念について具体的に説明し、理解して日々のケアに取り組んでいる。又、ケアで悩んだり問題が発生した場合などは全員で理念を再確認することもある。</p>	<p>”温かい笑顔で心をこめた...、寄り添い触れ合い...、地域の方々との...”の理念を開設時に全員で作成し、日々のサービス提供時においてこれで良いのか理念を掘り下げて話し合い、全職員が理念を共有し、日々の実践の中で具現化に取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治体へ加入しており、広報の配布を受けているため地域の情報も得られ、地域のお祭りなどの催し物への参加・地元高校生との交流会・中学生職場体験受け入れ・小学生との交流会・演芸ボランティア等で交流している。又地域住民の方が定期的に訪問され、入居者の皆さんと交流して頂いている。</p>	<p>普段の生活の中に地域のボランティアの訪問や学生の福祉体験等の受入れ等ある。また地域の神社の子供みこしの訪問があったりと触れ合う機会が多い。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>災害時の福祉避難所として町と協定を結び地元高齢者の避難場所としており、災害時に受け入れを行ったこともある。又、地域の老人会から敬老会へのホームからの出し物の依頼があり、職員が敬老会に参加する等地域との交流を行っている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の委員には包括支援センター職員・消防署員・区長・民生委員や近隣住民の方に委員となって頂き、地域の情報を頂いたり、災害時の協力体制を整えて頂くなどの協力も得られている。又、困難事例の相談なども行っている。</p>	<p>事業所の取組んでいる内容等、(行事やヒヤリハット事例、困難事例など)報告し、委員から具体的なアドバイスや協力を等を頂き、利用者へのサービスに活かすよう努めている。防火安全対策について地域の中にある「神戸の杜」と地域との協力体制の話し合いがされている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場などでも、困難事例の相談や助言を受けることもあり、介護保険担当者とも電話での相談も受け易く、運営に活かしている。又、月1回の地域ケア会議へも参加し、情報交換も行うなど、関係づくりに努めている。	事業所の状況の報告・相談を行い、必要に応じた情報の共有や連携を図っている。地域ケア会議に出席し、又、グループホームもケアマネ会議に参加出来るようになり参加し連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフの入社時研修では身体拘束禁止の具体的な行為について学んでもらい、日々のケアに取り組んでいる。ホーム内から自由にウッドデッキに出入りできるようにし、見守りを行うなど拘束にならないケアに取り組んでいるが、建物の立地条件上スタッフの勤務状況により施錠が必要となる場合がある。	事業所が傾斜地にあるなど、事業所固有のリスクを把握し、ヒヤリハット事例等を挙げ、意識づけを行っている。言葉の拘束や身体拘束を行わない支援に努めているが、ウッドデッキや玄関に通ずるドアの施錠等状況に応じて施錠する場合もある。	事業所全スタッフで気づきを持つ研修等(OJTやOff-JT)を行うなど、どんな事があっても拘束は行わないという事について全員で話し合い、安全を確保しつつ利用者の自由な暮らしの支援の工夫を期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法を入社時研修項目にいれ、虐待防止について学び、スタッフ同士で常に意識してケアに取り組んでいる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用できるように支援し、入居者の何名かは制度を利用している方がいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談があった時点から、契約内容について重要な部分の説明を行ない、入居が決定した場合は再度十分な説明を行うなど理解して頂いている。事前面談には十分な時間をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・入居者からは管理者に対して要望を言い易いように信頼関係づくりや雰囲気作りを心がけている。又、家族様意向確認書に記入して頂きスタッフ全員で情報を共有したり、ケアプランの更新時には希望などを聞き取り日々のケア反映させている。	家族との連携を大切に捉え「家族様意向確認書」を作成し、意見や要望等引き出す工夫に努めている。出された意見を基に管理者は職員と共に話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全体会議を行い、代表者・管理者・職員と意見交換する機会を設けている。管理者はスタッフの要望・提案などがあれば、代表者に伝え、運営に反映できるように努めている。	月1回の職員会において、代表者の出席があり意見交換を行っている。又、更にグループ内の責任者会議には、出された意見等検討を行い、事業所の運営に活かすよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフのケアへの取り組み姿勢や自己研鑽等の状況により、賞与や社員への登用・ベースアップを行っている。スタッフ同士の信頼関係づくりに努め、働きやすい職場環境づくりにも努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じて外部の研修会に参加する機会を設けたり、法人内でも研修の機会を作り、ケアに活かしている。又、様々な研修会の情報をスタッフに提供し、学ぶ機会を作り、スキルアップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣で活動しているネットワーク研修会に加盟し勉強会や研究発表会に参加し、ネットワークづくりに努め、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>最初の事前面談時には、本人の思いの汲み取りや、不安なことに対してはできるだけ丁寧に説明を行っている。入居をされるにあたって、体験入居して頂き、サービスを利用するか決められる方もあり信頼関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談・ホーム見学・契約内容の説明には時間をかけて丁寧にいき、要望などを聞きとったり、情報を頂くなど信頼関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居の申し込みがあった時点から、情報収集を行い、情報をもとに事前面談に臨み、グループホーム利用が最善かどうか協議する等の対応を行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居時の情報や入居後の状態をスタッフ全員で共有し、楽しく会話したり、家事などを一緒に行うなど、一人ひとりの状況に応じて、自立支援に繋げている。又、共に過ごすことを理念に掲げ、日々のケアに取り組んでいる。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ホーム側だけでなく家族と共に支えていきたいという思いを入居時に理解して頂き、家族様との信頼関係づくりに努めている。宿泊される家族もあり、スタッフの関わり方や生活の様子・認知症の進行状況等を見て頂き、話し合いの機会を持つことが出来ている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居時に家族やケアマネから情報収集し(センター方式シート使用)地域社会との繋がりを把握し、外食・理美容院・買い物等地域との関係性が途切れない様に支援している。又地域の方が定期的に訪問され作品作り等の指導も受けている。</p>	<p>地域にある南木曾会館へ出かけたり・友達に会いに行ったり・誕生日にはお花が届けられたり・年賀状を出したり・友達の訪問があったり...とこれまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援を大切にしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>認知症の行動障害により入居者間のトラブルを防止する為に、スタッフが常に見守りを行い、入居者同士の関係性がこじれない様に努めている。又、入居者同士の支え合いの場面も見受けられる。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了した場合は、その後のサービス利用状況もあるので、継続した支援は難しいと感じている。</p>		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時の家族・ケアマネからの情報や本人の希望や要望をスタッフ全員で共有し、本人の希望に添えるように心がけている。又、意思表示の困難な方は日々の言葉・表情・毎日の記録から意向を把握し、ケアプランに活かしている。</p>	<p>利用者一人ひとりの、日々の生活の中から利用者の思いや何気ない言葉を24時間生活変化シートに記録し、ミーティング時に話し合い、本人の視点に立った支援に努めている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>事前面談時から生活歴や生活環境等・サービス利用状況を把握したり、日々の会話の中からは家族からは面会時などにも情報を得て、アセスメントシートに記録し、馴染みの暮らしが継続できるように取り組んでいる。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録(D-4シート)や出来る出来ないシート、わかるわからないシートを記録しながら有する能力を把握し、スタッフ全員で共有できるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に意向を確認したり、日々の生活の中から、よりよく暮らすための課題などを話し合い、介護計画を作成し、ケアを行っている。随時モニタリングを行い、変更・追加を行うなど見直しも行っている。	日々の暮らしの中から、本人の思いや意向の記録を基に、サービス担当者会議に於いて意見を出し合い、計画作成担当者が作成し、チームで共有している。モニタリング、カンファレンスを繰り返し、随時見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はセンター方式シートに記録し、その時の状況や影響していること・本人や家族の言葉・スタッフの思い等を記入し、ケアプラン作成に繋げていけるように努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により、通院の介助や買い物の支援等を行っている。又、ベッドなどの持ち込みをされない方にはレンタルできるようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や家族の面会時・地域の広報誌などで、地域の情報を得て地域の方々と交流することで、入居者の方々の張り合いとなっているように感じる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は本人・家族の意向を尊重し、それぞれの主治医とは常に連携を取りながら、往診・受診・電話相談などにより、きめ細やかな対応が受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診は家族対応となっているが、職員が代行する場合もあり、報告は電話やお便りで連絡を取っている。協力医による定期的な往診もある。訪問当日も家族同行の受診から帰られた利用者が家族を玄関先で見送っていた。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師の退職により、現在は往診を受けている医院には常に相談できる体制になっているため、相談や助言が受け易く入居者の健康管理が出来ている。新たな看護師の採用ができ今後は看護師との連携が図れるようになっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>開設当初から、近隣の総合病院の関係者とコンタクトを取り、ネットワークづくりや緊急時に備えている。入院された場合には、入院当初から情報交換や相談を行うなど信頼関係づくりにも努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に、家族に対して重度化の指針について説明を行っている。今までに看取りを行ったことはないが、主治医・スタッフも方針を共有している。</p>	<p>事業所としての力量は把握しており、本人や家族とは、早期から話し合いはされている。関係機関との状況の変化に応じて、主治医や関係者と再確認をしながら支援体制に努めている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルを作成し、対応している。マニュアルの見直しもその都度行い急変や事故に備えている。主治医・消防署の職員によりアドバイスを受けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練については定期的に行っている。地域との連携については運営推進会議を通じて依頼して頂き協力体制も整えている。又、近隣住民の方に協力して頂き、2次避難までの訓練も行い災害に備えたり、非常食の備蓄もやっている。</p>	<p>利用者一人ひとりの状態を踏まえ、夜間の火災を想定しての避難訓練を、地域の皆さんの協力を得て、一緒に訓練が行われている。発生時に備えて、食糧や物品等準備している。又近隣の協力を得て二次避難の訓練を行い実践的な取組みを行っている。</p>	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<p>一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>サンシャインライフの介護理念として「人の尊厳を大切にする介護」を柱としており、会議の場でも振り返りを行い、スタッフ全員が、人格の尊重を重視した対応を心がけている。スタッフの心構えとしての約束事も掲げ日々のケアに取り組んでいる。</p>	<p>代表者は、職員に対し、利用者は人生の先輩として尊重した対応を心掛けるよう常に確認している。そして言葉かけなど誇りを損ねる接し方をした場合は、職員がそれに気づくまで管理者として対人援助の基本を徹底することに努めている。</p>	
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々の会話の中から思いを汲み取ったり、希望を聞き出し、一緒に考えたり、アドバイスをしたりして本人に決めて頂ける様心がけている。入浴は希望時(夜間入浴等)対応したり、飲食物も希望を聞き提供したり、献立も希望を取り入れたりすることも多い。</p>		
38		<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日課や業務の流れはおおよそ決まっているが、個々の生活のリズムを大切に、しかも孤立しない様に支援したり、様子をみながらその時に応じて、業務を変更する等の配慮を行っている。</p>		
39		<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>一人ひとりの好みやスタイル等を把握し、個々の身だしなみの支援を行なっている。又、整容には常に細やかな気遣いを行い、促しや介助を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事作りは、準備・調理・盛り付け・後片付けまで一緒に行っている。皆さんも楽しみにされ、準備の時間になると積極的に食事作りに参加され、後片付けも役割が出来ている。季節感を感じて頂くために、季節食やおやつ作りを楽しんで頂いている。</p>	<p>漬物名人・ヨモギ餅作り名人など、利用者一人ひとりが役割を持ち、食事の準備から片づけまで職員が間に入り、さり気なく支援をしている。訪問当日は木曾の郷土料理の”おおひら”の汁ものが出され、同じテーブルを囲み会話も弾み楽しい食事時間である。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立はバランスや地域性・好みを考慮し、状態に合わせて提供している。一人ひとりの水分量を記録・把握し、水分が不足しがちな方には好みの飲み物を提供する等配慮している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアは毎食後行っている。虫歯や歯の状態には常に気を配り、治療が必要な場合や入れ歯が必要な方や、かみ合わせが良くない方は歯科受診を行うなどの支援を行なっている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>自尊心と快適さを重視し、一人ひとりのパターンを把握し、パット確認を行ったり誘導を行い、快適に過ごして頂ける様に支援している。又、失敗をされた場合には言い易いような雰囲気作りにも努めている。</p>	<p>利用者の排泄記録行い、情報を共有し一人ひとりについて常に見直しを行っている。トイレでの排泄を大切にしながら、パット類も本人に合わせて検討している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘を解消するために、繊維質の多い食品を献立に取り入れたり、毎日手作りヨーグルトの提供・適度な運動等を行って頂き、便秘解消に努めている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことのできる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴時間は決めているが、希望がある場合は見守りが出来る限り、時間の幅を広げるように心がけたり、一人の方との関わりなので会話を楽しみながら行っている。希望される場合には、夜間入浴も行っている。</p>	<p>長湯を好む利用者・夜入浴したい利用者・拒む利用者など、一人ひとりの入浴タイプを把握している。季節を味わえる菖蒲湯・ゆず湯、ミカンの皮やリンゴの皮を風呂に入れた湯を提供し、気持ちよく入浴できる支援を行っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ自宅でのペースを尊重し、温度・湿度・照明などに注意し眠れない場合は、安心してできるような話をしたりお茶などを提供し、安心して休んで頂けるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はスタッフが確認できるようにし、服用後の状態の観察・記録も行っている。確実な服用(セット時・配布時・飲みこまれるまで確認)を心がけている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事・好きな事・得意な事を把握し、経験を活かして頂ける様に支援している。一人ひとりの役割も入居者同士でおおよそ決まっており、楽しみながら行ってみえるように感じる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周囲は自然が一杯で、春は山菜取りで楽しみ、夏は木々の緑を楽しみ、秋はもみじの紅葉と戸外に出る機会が増えている。又、町内には様々な花が咲き花見の機会も多く持つことができた。毎月外食に出かけ、買い物も楽しんでいる。	「ハンドクリームを買いたい」「じゃ、行きましょう!」「家に行って来たい」など、一人ひとりの行きたい気持ちに沿っている。個人の希望支援を行うと共に、皆で花見に出かけたり、外食に出かけたりと普段行けない場所へ皆で出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かる事を基本としているが、家族と相談し本人の希望に応じて、少額を自分で管理され外出時には自分で支払われる方もみえる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望された場合は自由にかけて頂ける様に支援している。 手紙でのやり取りはほとんどない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や換気・彩光・音には常に気を配り、居心地良く暮らして頂けるように支援している。トイレには解り易く貼り紙をしている所もある。皆さんと一緒に季節の貼り絵を貼ったり、季節の花を活けたり、快適に過ごせる空間づくりを目指している。	天井が高い広い共有スペースは、自然の光が入り明るく、台所を中心とし、ストーブがあり温かく、大きいソファでは利用者がゆったり座ってテレビを観たり、テーブルでは、手芸をしたり家庭的な雰囲気の中、居心地の良い空間づくりである。事業所を訪れる方も「気持ちいい。落ち着くね!」と言われる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にサンルームにソファを設置したり、畳コーナーや広々としたウッドデッキがあり、其々好みの場所で過ごして頂けるようになっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で使い慣れた物を持ち込んで頂くように依頼しているが、一人暮らしの方のため、馴染みの物の持ち込みが出来ていないため、今後は家族に依頼していきたい。	居室は掃き出しの窓、そこを開けると広いウッドデッキに出られる。部屋の中は、使い易いタンスや家族の写真が置かれている。好みによって畳を敷き炬燵も置かれている。各自で掃除して、今までの生活を尊重した居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は常に整理整頓と掃除には気を配り、安全な環境作りを心がけている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	立地条件上、スタッフの勤務状況により玄関へ通じるドアと居室側のウッドデッキに施錠を行う場合があり、身体拘束に繋がっている。	身体拘束(ドアの施錠)しないケアの実践に取り組む。	スタッフ全員で身体拘束禁止についての研修を行い、具体的な内容を理解し、施錠しないケアの実践に取り組む。 帰宅要求の強い入居者についてのケアカンファレンスを行い、具体的なケア内容を検討し、施錠しないケアに取り組む。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。